

特集：2017年「音の日」

日本オーディオ協会賞選考授与を終えて

一般社団法人日本オーディオ協会

会長 校條 亮治

はじめに

日本オーディオ協会は、今年創立 65 周年を迎え、ホテル雅叙園東京において去る 12 月 6 日（水）音の日に併催で特別記念講演会と共に、創立 35 周年を記念して設けられた「日本オーディオ協会賞」の授与式を行いました。この賞は「技術進化の早い電子機器において、5 年毎にオーディオ技術の開発、及び実用化に大いに貢献した個人、または組織の顕彰を行うために設ける」と謳っています。なお、10 年毎に行う「功績・功労賞」とは分けて行うことになっています。さらに、創立 60 周年を機に選考基準に技術的評価に加え、業界全体への功績を俯瞰した経営そのものの在り方を評価し、「経営戦略」に対する「オーディオ協会賞」を設けました。また、特例として「オーディオ協会特別栄誉賞」も設けています。この賞の特徴はオーディオという技術と音楽という文化が融合した極めて特異な「感性価値文化」の発展を期しての狙いがあり、過去錚錚たる諸先輩や著名な方々、及び組織が受賞されている権威ある賞であることです。それだけに選考委員の決定は勿論のこと、選考そのものも慎重にならざるを得ません。また経営そのものとなると極めてセンシティブな事項でありなおさらのことです。

今回は、選考委員会（5 名）による慎重な選考の結果、以下の報告通り、経営部門で 3 件 3 社と技術部門で 2 件 5 社の受賞が決まり表彰されました。夫々受賞された皆様の功績、ご努力に深く敬意を表しますと共に、業界の発展に寄与頂き、組織を代表して心から御礼を申し上げます。

■ 選考委員会の発足

以上、申し上げた通りの選考委員会の発足ですが、約一年前より検討していたもの実際は総会終了後にオーディオ協会関係者、音の日委員会、学識者、理事会等より選出し理事会の命により以下の方が就任し、直ちに選考会議が発足しました。

<選考委員会委員>（敬称略・順不同）

豊島 政實 （四日市大学名誉教授・豊島総合研究所代表・博士：録音、音場、映像技術）
山崎 芳男 （早稲田大学名誉教授：デジタル・伝送技術）
森 芳久 （諮問委員・音の日委員長：音楽論、オーディオ技術）
君塚 雅憲 （国立科学博物館 協会理事・JAS ジャーナル編集長：デジタル、録音技術）
校條 亮治 （協会会長：経営革新、マーケティング）
事務局：照井 和彦（協会事務局長）

■ 選考について

今年の技術部門については開発及び実用化は何といても「ハイレゾ・オーディオ」に全員の意見集約がされました。スピーカー、ヘッドホン等を含むトランスデューサー系、ハイレゾスペックのソフト系がエントリーされましたが、回路系や標準化が薄かったと思われます。一方、経営部門は経営革新によるブランド復活とそれを具現化するための商品開発によりお客様へ上手く繋いで事業強化を図った企業が受賞に至りました。

なお、「オーディオ協会特別栄誉賞」並びに「オーディオ協会賞大賞」は、今回は該当案件がありませんでした。

■ 受賞企業一覧と授賞理由

<経営戦略関係部門>

◎パナソニック株式会社 アプライアンス社 ホームエンターテインメント事業部

受賞理由：ブランド復活と市場活性化の推進

・昨今の厳しいオーディオ市場環境の中、往年のブランド‘テクニクス’を6年ぶりに復活させ高級オーディオへの再参入を2014年9月に発表しました。責任者である小川理子氏を先頭に市場の活性化とブランド認知活動に邁進し「Visionary (先進)」、「Refined (洗練)」、「Trusted (信頼)」をバリューとして、これに相応しい最新のデジタル技術を駆使した商品を開発し発表発売しています。

◎株式会社 JVC ケンウッド

受賞理由：CIとブランド戦略による市場活性化

・株式会社ケンウッドの創立70周年と日本ビクター株式会社の創立90周年を期しコーポレートブランド「JVCKENWOOD」グローバル企業を目指しました。中でも日本ビクターが掲げていた「革新の歴史の音と映像への探求心で時代を創る」を合言葉に、CIによるブランド戦略によって「Victor」を復活させて、ヘッドホンの商品化やハイレゾ・オーディオの開発商品化にも精力的に取り組んでいます。

◎三菱電機株式会社

受賞理由：ブランド戦略による組織を超えた事業強化

・2011年3月に新素材「カーボンナノチューブ」を活用した車載用スピーカー開発発表し、併せて「ダイヤトーン」ブランドの全面展開を打ち出されました。この開発により同ブランドをカーオーディオのトップブランドとして定着させ、またテレビカテゴリーでは「音質」を製品競争軸に持ち込み、高級オーディオ市場に「ダイヤトーン」ブランドを復活させ高級スピーカーとして発表しました。

<技術部門>

◎ソニービデオ&サウンドプロダクツ株式会社

受賞理由：ハイレゾ・オーディオの普及推進

・CD の開発以来、積極的にデジタルオーディオの高音質化に取り組む一方で、圧縮音源を含めたフォーマット開発や配信技術においても、多くの課題に取り組んできました。また、2013年9月にホームからモバイルまで「ハイレゾ・オーディオ」を一堂に商品展開して新しいオーディオの幕開けを演出し、この時に「ハイレゾ・オーディオ」にブランド価値を与える役割を果たした「ハイレゾ・オーディオロゴ」を、その後日本オーディオ協会に譲渡し普及拡大に大きく貢献しました。

◎株式会社インターネットイニシアティブ

◎株式会社コルグ

◎有限会社サイデラ・パラディソ

◎ソニー株式会社

受賞理由：「ハイレゾストリーミングサービス PrimeSeat」の開発及び運営

・ハイレゾ・オーディオの普及推進と連動すべく、ストリーミングによるハイレゾ楽曲の配信システムを立ち上げ、2015年にはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会を現地から東京へ5.6MHz・DSDストリーミングでの配信を成功させました。その後もベルリン・フィルハーモニー管弦楽団演奏会や東京藝術大学のアーカイブなど様々なコンテンツをハイレゾで配信し、さらに現在では11.2MHzでの配信など積極的に展開されています。これは株式会社コルグの1Bit編集・再生ソフトウェアとソニー株式会社のDSD信号処理技術、及び株式会社インターネットイニシアティブの配信プラットフォームで構成されたものを、有限会社サイデラ・パラディソのプロデュースにより組織を超えて連携実現したものであり、ハイレゾ・オーディオ時代を象徴していると考えられます。



日本オーディオ協会賞受賞企業代表の皆様